

超硬合金の精密加工技術を 磨き、ものづくりを高度化

納期相談
コスト相談
オンライン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



3次元測定機で高品質を保証

業務内容 刃物製造技術を切削工具、 金型に展開

超硬合金製の工具や金型、金型部品のメーカーで、飲料缶向け金型部品が主力。自動車部品も手がけ、マイクロメートル単位の精密加工が得意だ。仕上げ工程の研削・研磨技術にも定評がある。飲料缶向け金型部品は、海外への納入実績も持つ。

工業用刃物の販売で創業し、製造にも進出。培った技術を切削工具分野に展開し、昭和30年ごろからバイトの製作を始めた。その後金型も手がけるようになり、取引先の住友電気工業（株）から技術指導を受け同社の協力工場になった。同50年代後半には切削から耐磨製品に移行し、超精密金型の製造を実現。現在は大阪と山口に生産拠点を有する。

強み 高精度な設備をそろえ、 難加工のニーズにも応える

精度の高い設備が充実しており、マイクロメートル単位の加工が可能だ。治具研削盤は約15台保有。関口隆弘社長は「1社でこれだけ保有している会社は全国にない」と胸を張る。加工に使う砥石も自作する。ほかにもプロファイル研削盤を7台、ワイヤー放電加工機は±2mmの誤差を保証する高精度機など12台を設置する。

機械の組み合わせや使い分けで難度の高い加工にも対応。治具研削盤とワイヤー放電加工機の併用で穴の真円度を高め、車向けサイレントチェーン部品のピン折れを防ぐことに成功した。3次元測定機も導入して、高品質を確保している。

人材育成 高度な技能の伝承方法を 工夫、多能工化も推進

豊富な設備に加え、加工に携わる技術者

の技能の高さも特徴だ。±10mm以内の精度を可能にする研磨技術は、もともと外注だった工程を内製化して体得した。研削盤での加工はワーク（対象物）をレンズでのぞきながら行っているが、モニターで映し出した映像を見ながら作業できるように工夫し、技能伝承を進めやすくなった。

多能工の育成にも力を入れる。個人の技能や設備に対する理解度などに応じてスキルを5階級に分け、色別に表示した専用のボードを工場内に貼りだすとともに、2ヵ月に1回内容を見直すなどして技術向上を促す。

今後の展望 海外やプラスチック成形 向けに金型部品に商機

飲料缶向け金型部品の需要は国内で堅調に推移している。さらに期待できるのが、海外への事業展開だ。メーカーが工場を構える東南アジアや米国、中国などで、引き合いが増えているという。国ごとに異なる仕様に対応しながら、取引先の大阪工機（株）と連携して拡販を狙う。

飲料用では缶以外でも、プラスチック容器向け射出成形用金型の需要も取り込む。治具研削盤や、内筒研削盤といった高精度な設備が生かせる製品で、新たな市場を開拓する。こうした商機をしっかりとらえ、関口社長は「売り上げを今の約3倍にしたい」と意気込む。



加工精度1μmが可能な治具研削盤



研磨技術が光る手仕上げ加工

当社の歴史



刃物の販売から製造へと事業を広げ、切削工具、金型と展開し、当時金型材質の主流となりつつあった超硬合金の加工に注力し、技術を培ってきました。現在は研磨を中心とする精密加工を得意としています。今後も高精度な設備を生かしたものづくり、そしてヒトづくりに取り組んで参ります。

代表取締役社長 関口 隆弘さん

<http://www.aoi-seiki.jp/>

主な事業内容

超精密金型、金型部品、切削工具の設計、開発、製作

主な取引先(納入先)

工具商社、工具メーカー

●住所

〒545-0042
大阪市阿倍野区
丸山通2-5-1

●TEL

06-6653-3501

●FAX

06-6653-3503

●創業

昭和27年3月

●設立

昭和30年8月

●資本金

3,000万円

●従業員

57名